





審査結果報告書

2023年 2月 3日

主査	氏名	青山直善	
副査	氏名	岡本浩嗣	
副査	氏名	鈴木隆浩	
副査	氏名	高橋倫子	

1. 申請者氏名 : DM19001 朝倉 清史

2. 論文テーマ :

光干渉断層法を使用した冠動脈疾患患者における中性脂肪値と冠動脈プラーク性状の関係の検討

3. 論文審査結果 :

2023年2月3日17時より上記主査、副査にて、学位審査を実施した。高い中性脂肪値は心血管疾患発症の危険因子であることは示されているが、冠動脈プラークの性状に与える影響は十分に評価されていない。本研究では、光干渉断層法を用いて、高い中性脂肪値と冠動脈病変の詳細なプラーク特性の関連を明らかにすることが目的である。中性脂肪値 150mg/dl を境界として高中性脂肪群(n=337)と低中性脂肪群(n=513)に分けて光干渉断層法で観察した冠動脈プラークは、高中性脂肪群では、脂質プラーク、菲薄性線維性被膜、マクロファージ、を高率に有していた。多変量解析では高い中性脂肪が菲薄性線維性被膜の独立した予測因子であった。低比重リポ蛋白コレステロール値が低い(100mg/dl未満)患者でも、マクロファージおよび層状プラークを有するプラークの割合が、高中性脂肪群で有意に多かった。これらの知見から高中性脂肪血症は、マクロファージの活性化、それに続くプラークの体積の増大およびその形態的变化を介して脆弱性プラークへ変化を引き起こしており、高中性脂肪血症は冠動脈プラークの不安定化に関与していることが示唆され、急性冠症候群再発予防には中性脂肪高値のコントロールが必要であることが示された。これらの研究成果は、今後の急性冠症候群の診療において非常に重要な事項を含んでおり、学位論文として相応しいものと判断した。以上